

IOSCOによる「人工知能及び機械学習を利用する市場仲介者及び資産運用会社向けのガイダンス」の公表

証券監督者国際機構（IOSCO）の代表理事会は、6月に公表した[市中協議文書](#)に続いて、本日、市場仲介者及び資産運用会社による人工知能（AI）及び機械学習（ML）の利用をメンバーが規制・監督する際に役立つ[ガイダンス](#)を公表した。

AI及びMLの利用は、既存のプロセスの効率性を高め、投資サービスのコストを削減し、他の活動のためにリソースを開放することによって、市場仲介者、アセットマネージャー、投資家に利益をもたらすであろう。しかし、リスクを生み出したり、増幅させたりすることで、金融市場の効率性を損ない、消費者や他の市場参加者に損害を与える可能性もある。

さらに、市場仲介者や資産運用会社によるAI及びMLの利用は、技術に対する理解が進むにつれて拡大している。IOSCOの報告書は、市場仲介者や資産運用会社がコスト削減と効率化のためにAIやMLをどのように利用しているかを説明している。電子トレーディング・プラットフォームの利用の増加やデータの利用可能性の高まりにより、事業者はトレーディングや助言活動、リスク管理やコンプライアンス機能において、AIやMLを次第に利用するようになった。

その結果、規制当局は、潜在的なリスクを軽減し、消費者被害を防止するために、金融市場におけるAI及びMLの利用とコントロールに焦点を当てている。2019年には、IOSCO代表理事会は、AIとMLを優先事項として位置づけた。

IOSCOのガイダンスは、市場仲介者と資産運用会社が以下の点を確実に有するための6つの措置から構成されている。

- AI及びMLの開発、テスト、利用、パフォーマンスのモニタリングに関する適切なガバナンス、コントロール及び監視の枠組み
- AI及びMLが出した結果を実行し、監視し、検証するために十分な知識、技能、経験を持ったスタッフ
- AI及びMLの本格的な展開に先立って事業者が潜在的な問題を特定することを可能にする、強固で一貫性のある、明確に定義された開発とテストのプロセス、及び
- 投資家、規制当局、その他の関連するステークホルダーに対する適切な透明性と情報開示

当ガイダンスに加えて、報告書には、規制当局がAI及びMLによって生じた課題にどのように対処しているかとの点と、この分野において国際機関によって出されたガイダンスを記載した2つの付属書が含まれる。

IOSCOメンバーは、法制・規制上の枠組みに照らして、これらの措置を慎重に検討することが推奨される。

AI 及び ML の利用は、技術の進歩とともに増加し、それに伴う新たなリスクに対処するために、規制の枠組みも並行して進化していくものと考えられる。IOSCO は今後、定義やガイダンスを含む報告書が最新のものとなるよう、報告書を見直していく。

(Note to the Editor は省略)

(以 上)